

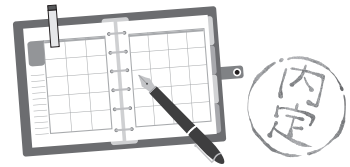
就職試験 ジャーナル

第44巻 臨増1号
2022年6月6日発行

特集 高校生の就職 知っておきたい基礎知識

企業研究、自己分析、筆記試験対策など、就職試験の準備は多岐にわたる。学業と並行して効率的に行うには2学年の夏休み前後から始めたいものだ。

今号では、就職指導を始めるにあたって押さえておきたい高校新卒者の就職に関する基礎知識および概況をご紹介します。



高校新卒者の就職の基本ルール

言うまでもなく、高校生にとっての最優先事項は学校での学習である。よって、学業の妨げにならないよう、高校新卒者の就職活動については厳格なルールが定められている。

①採用スケジュール

高校新卒者の求人は、ハローワークが内容を確認してから提示される。求人は、学校を通して求人票が公開され、応募も学校を通して行う形が一般的である（学校を通した求人に応募する場合には学校の推薦が必要であり、希望者が多数の場合は校内で選考が行われる）。

ハローワークによって確認された求人票の公開日や応募開始日などは、統一されたスケジュールがあり、例年、次のようになっている。

- 7月1日 求人票公開
- 9月5日 応募書類提出開始 ※沖縄県は8月30日
- 9月16日 選考および採用内定開始

②一人一社制

学校通しの求人において、9月の応募書類提出開始日から一定期間、一人の生徒が応募できる企業は一社に限定されており、内定を得られなかった場合に次の企業に応募できる。大学生の就職と異なり、原則として内定辞退はできない。

ほとんどの都道府県で採用されている制度だが、複数の企業に応募可能となる時期など、細か

なルールは都道府県の状況に応じて異なる。

「一人一社制」については、離職率の高さにつながっているという指摘もあり、また、成年年齢18歳に引き下げの観点からも、主体性や多様性への配慮、生徒にとっての選択肢を広げることなどを目的として見直しを続けていくという提言が、文部科学省・厚生労働省が設置したワーキングチームから2020年に出されており、今後の動向を注視したい。

すでに秋田県や沖縄県は開始時からの複数社応募を可能としていたが、和歌山県も2021年度から複数社応募を可能とし、大阪府も長年採用して

資料1 ●高校新卒者の求人数・求職者数・求人倍率・就職内定率の推移

卒業年 (3月末)	求人数 (人)	求職者数 (人)	求人倍率 (倍)	就職内定率 (%)
2013年	227,168	165,777	1.37	97.6
2014年	255,472	164,268	1.56	98.2
2015年	316,055	171,084	1.85	98.8
2016年	352,993	172,748	2.04	99.1
2017年	387,308	173,586	2.23	99.2
2018年	432,669	171,265	2.53	99.3
2019年	476,969	171,313	2.78	99.4
2020年	484,234	167,794	2.89	99.3
2021年	386,205	146,429	2.64	99.1
2022年※	368,520	138,328	2.66	62.0

※2021年9月末現在での集計。

(厚生労働省)

きた一人一社制を見直して2022年度から二社まで応募可能とする方針に切り替えた。

③求人票・応募書類の書式

求人票のほか、履歴書や調査書の書式は全国で統一されており、それ以外の書類の提出を企業から求められることはない。

なお、求人票については、厚生労働省のホームページ（高卒就職情報WEB提供サービス <https://koukou.gakusei.hellowork.mhlw.go.jp/>）にて、「見方のポイント」や「会社選びのポイント」をまとめたリーフレットを掲載しているので参考にしてほしい。生徒にとって、希望する会社を探すための大事な資料となるので、十分に理解させておきたい。

高卒就職者の状況

厚生労働省発表の「高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況」を中心に、近年の高卒就職の状況を概観する。

2省の最新データについては『就職試験ジャーナル 第44巻第2号（11月7日発行）』に掲載予定なので、そちらもご参照いただきたい。

①求人数の推移

2020年度の新規高卒就職（2021年3月卒）は、新型コロナウイルスの感染拡大により選考スケジュールが1か月後ろ倒しとなったり、景気の急激な悪化が響いて求人数が激減し、内定取り消しが相次ぐなど大きな混乱が生じた。

厚生労働省の2021年3月末現在のデータでは、求人数は38万6千人で前年同期比20.2%（98,000人）の大幅減となり、産業別求人数では「製造業」25.6%減（37,300人減）、「卸売業・小売業」21.4%減（13,400人減）、「宿泊業・飲食サービス業」44.5%減（12,800人減）、「生活関連サービス業、娯楽業」33.3%減（7,800人減）の落ち込みが目立った。

翌2021年度（2022年3月卒）では、9月末現在の求人数は前年10月比0.3%減（1,160人減）と微減にとどまった。都道府県別では、香川県9.8%減、沖縄県9.1%減、大阪府7.7%減、東京都7.1%減のマイナスが大きく、一方、山梨県12.1%増、鹿児島県11.5%増などは二桁台の伸びを示した。

コロナ前の2019年9月末現在と比べてみると、

全国で97,400人、20.9%もの求人が減少している。産業別でみると、「製造業」19.2%減（27,400人減）、「卸売業・小売業」27.5%減（16,400人減）、「宿泊業・飲食サービス業」51.4%減（14,200人減）、「生活関連サービス業、娯楽業」38.9%減（8,800人減）という状況である。長引くコロナ禍によって経済の回復が遅れており、採用の抑制が続いていることがわかる。

②求職者数・内定率

9月末現在の求職者数は13万8千人で、前年10月比9.2%減（14,000人減）と、2年連続の大きなマイナスとなった。コロナ前の2019年度同時期と比べると、31,000人、18.4%も減少している。

これについて厚生労働省は、長引くコロナ禍による景気回復の遅れや先行きを見通せない不安から、民間企業への就職を避けて、大学や専門学校への進学や公務員への就職に進路変更した可能性が高いとみている。

求人倍率は2.66倍で、求人数に対して求職者数のマイナス幅が大きかったため、前年10月比0.23ポイント増となった。

就職内定率は62.0%、前年10月比2.2ポイント減であるが、前年は調査月が1か月後ろにずれただため、同月末で比較できれば差は縮まると思われる。

③職業別就職状況

文部科学省の「学校基本調査」によると、高卒就職者の職業別就職状況において、最も割合が多いのは「生産工程従事者」（製造・加工、機械組立、整備修理など）である（資料2）が、この10年で減少傾向にある。一方、10年前に比べて従事する割合が増えているのが「その他」である。保安（6.0% 2021年3月卒）、建設・採掘（6.9%）等が含まれており、近年、その割合は増えつつある。

④離職率

高卒者の早期離職率は減少傾向にある。かつての新規学卒者の離職率は「七五三現象」などと形容され、就職して3年以内に中卒で7割、高卒で5割、大卒で3割が最初の仕事を辞めると言われていた。しかし、高卒の場合、2000年3月卒の5割をピークに徐々に下がり、近年は4割を切る水準になっている（資料3）。

産業別では就職後3年以内に離職率が高いの

は、「宿泊業・飲食サービス業」61.1%、ついで「生活関連サービス業、娯楽業」56.9%、「教育・学習支援業」50.1%、「小売業」47.8%などで、毎年同じような傾向が続いている。

一口に3年以内の離職といっても、入社後の年数を重ねるごとに離職率は下がっていく。2018年3月卒で見ても、1年目は16.9%、2年目は11.9%、3年目は8.1%となっている。ここから、離職を防ぐには入社後の最初の1年を乗り切ることが重要であると読み取れる。

離職にはさまざまな原因が考えられるが、雇用のミスマッチが大きな一因といわれている。職場での意思疎通の向上、教育訓練の実施・援助など、企業でも若い社員の定着のための対策を行っているが、就職希望者もしっかりと情報収集・分析をして自分の興味・適性に合った就職先を選択することが重要である。

夏休みを中心に、インターンシップや職場見学を受け入れる企業も多い。実際の職場の雰囲気や仕事内容をつかめる貴重な機会なので、積極的な参加を促したい。

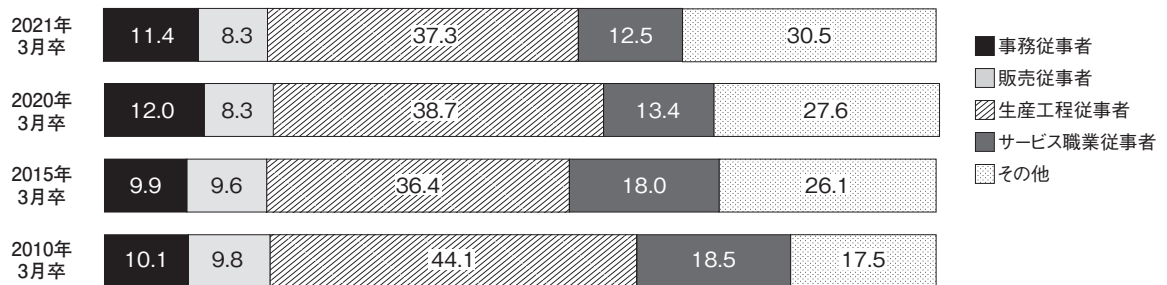
高卒就職志望者に求められるもの

企業側が若年労働者に求めているものは何か。2018年に厚生労働省が、若年労働者（15～34歳）を正社員として採用選考した事業所に実施した調査によると、選考にあたり重視した点（複数回答）は、新規学卒者・中途採用者ともに「職業意識・勤労意欲・チャレンジ精神」がそれぞれ77.9%、76.0%と最も高くなっている。新規学卒者では、次いで「コミュニケーション能力」71.1%、「マナー・社会常識」61.0%と続く（資料4）。

経済同友会が2016年に行った調査でも、「高校新卒者に企業が期待すること」では、人格面で「対人コミュニケーション能力」（86.0%）、ストレス耐性（68.9%）、「マナー」（65.8%）、教育面では「基礎学力」（92.3%）、「一般教養」（75.8%）への要望が高い。

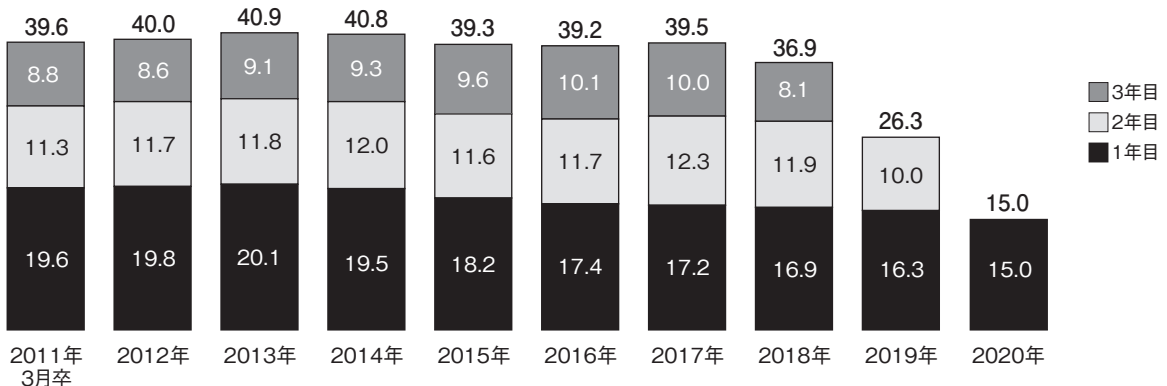
「マナーや一般常識」は勉強すれば身に付くものなので、取り組ませておきたい。言葉づかいや服装、立居振る舞いなど、日頃から礼儀正しさを意識することで、マナーは身に付いていく。

資料2 ● 新規高卒者の職業別就職状況の推移



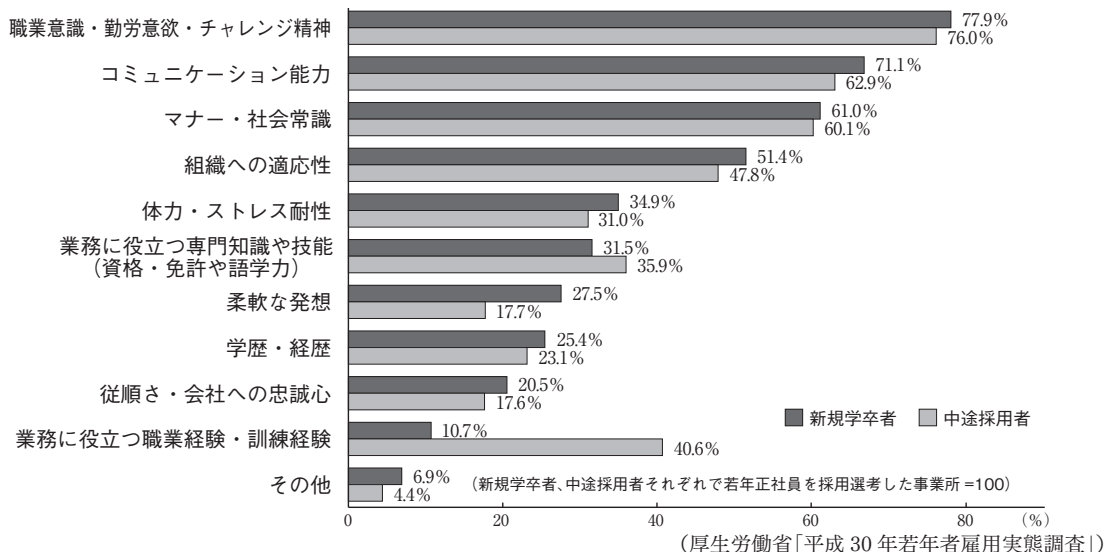
(文部科学省「学校基本調査」)

資料3 ● 高卒就職者の在職期間別離職率の推移



(厚生労働省「新規学卒就職者の離職状況」)

資料 4 ● 正社員の採用選考にあたり重視した点別事業所割合（複数回答）



今号の
イチオシ教材

職場見学・インターンシップの事前指導に役立つテーマを
ピックアップしてご紹介。

高校生のキャリアノート

編集●全国高等学校進路指導協議会
体裁●各テーマA4判・8～16ページ [全25テーマ]
定価●各テーマ170円(税込)

1テーマ50分程度で学習できるテーマ別分冊のワーク教材です。

授業にそのまま使える「授業サポートガイド」を進呈。

テーマ③ 職業 いろいろ発見

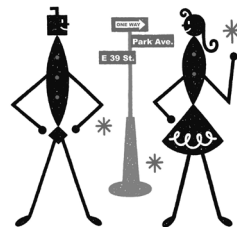
企業研究の第一歩、職業調べをサポートするテーマです。身近な職業から接する機会の少ない職業までを取り上げ、生徒の興味・関心を引き出します。同時に自身の「働く」目的を明確化させ、それに合った働き方を考えさせます。

テーマ⑪ 企業とその仕事を知る

「企業研究」というと業種に目が行きがちですが、1つの企業は様々な部署で成り立っており、部署ごとに異なる仕事をしています。このテーマでは企業の中の職業（職種）に注目し、自分の興味・関心を確認できます。

テーマ⑫ 職場 リアル体験

職場見学・インターンシップの事前・事後指導のワークブックとしてご利用いただけるテーマです。具体的なチェック項目を直接書き込むことができるので、効率的に体験レポートをまとめることができます。



★ご検討用実物見本を無料進呈!お気軽にご請求ください。☎ 03-3355-1801 実務教育出版 教育教材事業部

『就職試験ジャーナル』
バックナンバーについて

本年と前年の『就職試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材 NAVI」でご覧いただけます。

高等学校のTOPページ (www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/) より、「活用情報 (モデルプラン・指導情報など)」→「指導情報」をご覧ください。